



ここは…もう一つの「我が家、だ

現在、『ケアホーム希望』に利用中のTさんは、私が病院勤務をしていたときの患者さんで、知り合ってから約25年もの付き合いになる。

はじめはTさんの妻が『ケアホーム希望』を利用するようになり、約3年一緒に介護をし、Tさんと共に妻を『ケアホーム希望』で看送った。

その後、元気だったTさんも妻が亡くなってからは歩行時にふらつき、何度も転倒したりして少しずつ体力、筋力が低下しいった。今は肺の病気も見付き在宅酸素を使用しており、要介護4にまでなってしまった。

これまでは「通い」サービス中心の利用であったが、体調が不安定の今は「泊まり」のサービスが主となり体調がよい時に娘に協力してもらい我が家へ帰り、気分転換を図っている。

「家にいると静かすぎて淋しくなり、妻の仏壇に線香をあげ手を合わせると更に淋しくなるんだよ」と言う。『ケアホーム希望』はいつも賑やかで、ガヤガヤしていてうるさいと感じることもあるけれど、みんながいるから淋しくないんだよ。俺には我が家が2つあるみたいで嬉しいよ。」と言う。

『ケアホーム希望』は、高齢者の願いを聴き、家の延長線で看護と介護でつくる「もう一つの家」である。家では家族に遠慮して言えないことも、利用者さん同士であったり、職員にいろいろ話したり、聞いてもらったりすることで時には涙したり、わめいたりすることもあるけれど、みんな受け止めることができる場所である。

「あなた一人じゃないわよ。私だってそうなんだから…」等との声が聞こえる。

また、コロナ禍で、みんなと一緒に出掛けることができず、外食することもできないけど、「郷土料理が食べたい…」とお願いすれば、調理師のSさんがそれぞれの故郷やエピソードを聞き、食べたいものを作ってくれたりする。

具合が悪く、熱が出たとなればすぐに看護師が主治医と連絡、連携を取りあって点滴等の対応をしてくれる。

みんなと一緒に外出ができないのであれば、3密にならないように工夫しながら気分転換にドライブや散歩にも連れて行ってくれる。

なによりも、誕生日会は職員や利用者みんなが祝ってくれて、プレゼントがもらえるのも楽しみの一つだ。

『ケアホーム希望』で喜怒哀楽のある日々を毎日楽しく過ごしている。



芋煮



『食事介助 ～食べてくれない人への対応方法～』

「食事を拒否したり、うまく食べられないなど、食事を摂ってくれず困っている」ということはありませんか？
体調が悪いなど、様々な原因も考えられますが、認知機能が低下してくると食べない理由があってもうまく伝えられないことがあります。



認知症の影響で食事が理解できない

食べ物を認識できなくなり、箸の使い方もわからなくなることがあります。一緒に食事をして動作を真似てもらったり、声をかけて食べ物であることを理解してもらいます。



食器を工夫する

認知機能が低下してくると、食事が乗ったお皿が柄物だった場合、食べ物と柄の区別がつきにくいことがあります。認識のしやすい無地の食器を使うのも一つの方法です。

加齢による身体機能の低下

高齢になると、身体機能・認知機能が徐々に衰え、低下します。消化器官も老化し、大腸の働きも悪くなり便秘がちになります。便秘の場合、スッキリすると食べれるようになることもあります。排便について 日ごろから確認しておきます。
食事前にはトイレに行き気持ちよく食べられるようにします。

怒らない

本人は食事ということを理解していないかもしれません。また、動作が遅く食事に時間がかかることもあります。そんな時、責めたり怒ったりしても解決にならないばかりか、怒られたことで食事に対する悪いイメージを持ち、ますます嫌がることもあります。おおらかに接する努力を心がけます。

身体を動かす

身体を動かさないとお腹も空かないものです。食欲増進のため、できるだけ動く機会を作り、散歩をしたり、座ったままでも音楽をかけながらの軽い体操などは、食欲が湧く以外にも気分転換や認知機能への刺激などにもなります。

雰囲気演出する

食事についての概念がわからなくなっている方には、一緒に食事を摂り、手をつけない場合には、匂いをかいでもらったり、少し口元に持っていけば、そのまま食べてくれることもあります。一生懸命のあまり介護者のペースで介助していませんか？
なぜ食べないのかを探ることも大切です。無理なく食事時間が「楽しい！」と感じられる環境を作っていきましょう！



おめでとう！



毎年ステキな誕生日プレゼントをありがとうございます！



今年は素敵な柄のパジャマをありがとうございます！



夫婦2人で毎日楽しくお世話になっています
これからどうぞよろしく
お願いします



お前は
いったいいくつになったんだ？